| 学校番号 | ３００２ |
|---|---|

令和５年度　農業科

| 教科 | 農業 | 科目 | (学)ヒトと動物 | 単位数 | １単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ヒトと動物では、人間と動物との関わりについて、イヌやネコなどの社会動物を主な題材とし、座学や実習を通して学習します。
動物愛護論や動物関係法令、動物倫理についても学び、動物を活用するうえでの道徳感についても学習します。また、動物の各器官の形態、構造（解剖）を知り、それぞれの器官がどのような働き（生理）をしているのかを学ぶことは、動物の遺伝、病気などを理解するために必要なことであり、また動物を飼育管理する場合にも直接的、間接的に役立ちます。そのため、実際の動物や剥製標本、骨格標本などを活用し、解剖実習も実施することによって更に理解を深めます。そして、身につけた知識や技術を動物の飼養管理実習に活かすことを最終的な目標とします。

2　学習の到達目標

○動物の行動学と動物観、ヒトとの関わりについて理解する。（知識・技術）
○産業動物・社会動物・展示動物・実験動物・家庭動物について理解する。（知識・技術）
○衛生管理、病気と感染について理解する。（知識・技術）
○動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令を理解し、現代社会と動物の関わりについて自ら考え、課題を解決しようとする。（思考・判断・表現）
○動物の解剖と生理について、興味・関心を持ち、自ら主体的に実践的に学ぶ態度を身に付ける。（主体的に学習に取り組む態度）

3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・ヒトと動物の関係について、また、動物の行動学と動物観、ヒトとの関わりについて理解している。<br>・産業動物・社会動物・展示動物・実験動物等について、また、動物の解剖・生理や社会の発展と動物介在、動物のとの共生について総合的に理解している。 | ・動物を利用するうえで動物愛護や倫理とのバランスや社会との関わり方について考えることができる。<br>・動物をどのように活用していくかを学術的に考えることができる。また、ヒトの暮らしを豊かにするための動物の活用についての課題を見つけ解決策を考えることができる。 | ・ヒトと動物の関係と共進化、共生と発展について、興味・関心を持ち、自ら主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。<br>・動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 |
| 評価方法 | 学習状況の観察<br>ノートの記述<br>レポート<br>発表<br>自己評価<br>定期考査の結果 | 学習状況の観察<br>ノートの記述<br>レポート<br>発表<br>自己評価・相互評価<br>定期考査の結果 | 学習状況の観察<br>ノートの記述<br>レポート<br>発表 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元（題材）の評価基準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 動物愛護論<br><br>動物倫理<br><br>動物関係法令 | 日本人の動物観<br>西洋人の動物観<br>動物愛護運動の歴史<br>現代の動物愛護運動とその思想<br><br>動物倫理<br><br>動物愛護及び管理に関する法律<br>動物愛護及び管理に関する基準<br>家庭飼育動物に関わる関係法令 | a：動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令について、動物倫理とのバランスや社会との関わり方を理解している。<br>b：動物を利用するうえで動物愛護や倫理とのバランスや社会との関わり方について考えることができる。<br>c：動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 | 授業観察<br>ノート<br>定期考査<br>レポート<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>定期考査<br>レポート<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>レポート<br>発表 |
| 2学期 | 愛玩動物の生理<br><br>動物の解剖と生理（解剖実習） | ネコの生理<br>ネコの繁殖<br>去勢と避妊<br>不妊手術の見学<br><br>生物と生命現象<br>動物体の成り立ち<br>体部の名称及び器官の位置と名称<br>骨格と筋肉・皮膚・呼吸器・循環器・消化器・泌尿器・生殖器・神経系・内分泌系 | a:動物の解剖・生理について、骨格や各器官の構造等を正しく理解している。<br>b: 動物の生理を理解した上で、動物の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。<br>c: 動物の解剖・生理について、関心を持ち積極的に学習や解剖実習に取り組んでいる。各動物種における飼育管理および飼料給与についての技術を習得している。 | 授業観察<br>ノート<br>定期考査<br>レポート<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>定期考査<br>レポート<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>レポート<br>発表 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 社会と動物の活用<br><br>動物法令法規 | 社会の発展と動物<br><br>動物法令法規（狂犬病予防法、家畜伝染予防法、絶滅の恐れのある野生動物の種の保存に関する法律） | a: 動物の特性に関心を持ち、意欲的に学習及び解剖実習に取り組んでいる。動物の特性や動物関係法令について、正しく理解し、知識を身につけている。<br>b: 動物の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。<br>c:社会における動物の役割や動物関係法規について興味関心を持ち、自ら主体的に学ぶ態度を身に付けている。 | 授業観察<br>ノート<br>レポート<br>定期考査<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>レポート<br>定期考査<br>発表 | 授業観察<br>ノート<br>レポート<br>発表 |

※　表中の観点について　a:知識・技術　　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度